

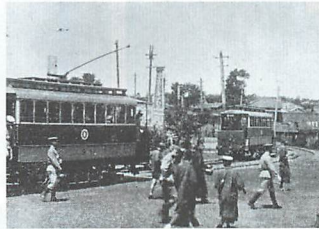
エンタテイメントシティ渋谷の歴史を振り返ってみましょう

明治の初め、今の渋谷駅周辺には茶畑や牧場があり、のどかな風景が広がっていました。その渋谷が変化していく萌芽は、1885(明治18)年の「渋谷駅」の誕生。133年を経て、渋谷は多様な文化やビジネスを生み出すエンタテイメントシティへと成長を続けています。

1885~1939年

ターミナル駅ができて、「渋谷村」から「街」へ

1885年、現・山手線の開通により渋谷村に渋谷駅が誕生。その後、玉川電気鉄道玉川線の開業を皮切りに、電車やバスが開通。「村」は人々が集まる「街」へと変わります。1934(昭和9)年には東日本初の本格的ターミナルデパートとして、東横百貨店がオープン。当時流行の生活用品を揃えた人気スポットに。道玄坂をはじめとする商店街の形成に大きな影響を与えました。



玉川電気鉄道の開業当時(1911年)の渋谷駅の様子。写真提供:東急電鉄



開業当時(1934年)の東横百貨店と東京横浜電鉄の渋谷駅。写真提供:東急電鉄



1921年頃の現・明治通りを走る玉川電気鉄道(現・渋谷警察署付近)。写真提供:白根記念渋谷区郷土博物館・文学館

1940~1969年

戦後の復興から東京の文化拠点に

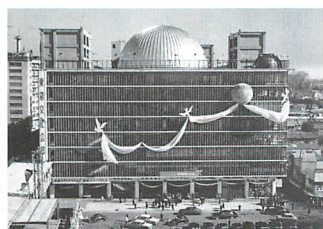
日本が戦後復興を邁進する中、1950年代には東急会館、東急文化会館が開業。東急会館は百貨店に加え、歌舞伎や落語を楽しむ東横ホールを、東急文化会館は映画館やプラネタリウムを擁していました。1960年代は東京五輪の開催に伴い、渋谷公会堂や代々木競技場が誕生。そして、NHK放送センターが移転。東京の文化拠点として発展していきました。



1952年の空中電車ひばり号。定員12名で、子どものみ乗車可能だった。撮影:赤石定次 所蔵:東急電鉄



1967年のハチ公前広場。忠犬ハチ公像は二代目。写真提供:東急電鉄



開業当時(1956年)の東急文化会館。娯楽を求める人で賑わった。写真提供:東急電鉄

年次	出来事
1885年	日本鉄道品川線(現:山手線)の開通により、渋谷駅が誕生
1907年	玉川電気鉄道 玉川線(後の田園都市線の一部)が開業
1911年	東京市電(後の東京都電)が開通
1920年	山手線の駅舎が現在の位置に移転
1924年	東京市営バスが開業
1927年	東京横浜電鉄(現:東横線)が開通
1933年	帝都電鉄(現:京王井の頭線)が開通
1934年	忠犬八子公像が設置 東横百貨店(後の東急百貨店東横店東館)が開業
1938年	東京高速鉄道(現:東京メトロ銀座線)が開通
1945年	太平洋戦争下の空襲によって渋谷の街全体が大きな被害を受ける
1948年	二代目忠犬八子公像が設置
1951年	東急百貨店の屋上と玉電ビルをつなぐロープウェー 「空中電車ひばり号」が運行開始
1954年	東急会館(現:東急百貨店東横店西館)が開業
1956年	東急文化会館が開業
1957年	渋谷地下街が完成
1964年	渋谷公会堂、代々木競技場が誕生 首都高速道路(渋谷4丁目-渋谷、1.3km)が完成
1965年	東急プラザ渋谷が開業 NHK放送センター運用開始
1967年	東急百貨店本店が開業
1973年	渋谷パルコが開業 NHK放送センターが千代田区内幸町から移転完了
1977年	東急新玉川線(現:田園都市線)が開通
1978年	営団(現:東京メトロ)半蔵門線が開通 東急ハンズ渋谷店が開業
1979年	渋谷東急イン(現:渋谷東急REIホテル)、 ファッションコミュニティ109(現:SHIBUYA109)が開業
1981年	タワーレコード渋谷店が開業
1985年	第1回東京国際映画祭が開催
1987年	渋谷西武ロフト館が開業
1989年	Bunkamuraが開業
1990年	HMV渋谷が開業
1999年	QFRONTが開業
2000年	渋谷マクシティ、渋谷エクセルホテル東急が開業
2001年	セルリアンタワーが完成
2002年	スクランブル交差点周辺の歩行者天国を廃止
2008年	東京メトロ副都心線が開通
2012年	渋谷ヒカリエが開業
2013年	東横線と副都心線の相互直通運転開始 旧東横線渋谷駅舎解体へ
2015年	東急プラザ渋谷閉館
2017年	渋谷キャストが開業
2018年	渋谷ストリーム、渋谷ブリッジが開業

1970~1999年

若者の街として、最新の流行を発信

1970年代には渋谷パルコやファッションコミュニティ109がオープン。さらに、ファッションや音楽、映像、演劇などの文化を発信するスポットが多数誕生しました。1980年代に入ると、センター街を中心にチーマー族など独自の若者文化が形成され、1990年代には、渋谷系や渋谷系ポップミュージック、コギャルファッションが一大ブームに。渋谷に多くの若者が集まるようになり、最新の流行を生み出す街へと成長しました。



1970年、渋谷駅前で歩行者天国がはじまる。写真提供:東急電鉄



1990年代にはルーズソックスが流行した。写真提供:ロイター/アフロ



女性ファッションの聖地となったファッションコミュニティ109(現:SHIBUYA109)。写真提供:東急電鉄



新たなDIY文化を広めた東急ハンズ渋谷店。写真提供:東急電鉄

2000年以降

ランドマークが続々と誕生し、大人も楽しめる街へ

2000年に入ると、渋谷は「ピットバレー」と呼ばれるITビジネスの中心地に。そして、渋谷ヒカリエをはじめとしたランドマークが次々と完成し、若者だけでなく、大人や海外の方も集まる街へと変貌。現在は、渋谷駅周辺の大規模再開発が進行中。多彩な個性や魅力、歴史を生かした街づくりが始まっています。



2010年FIFAワールドカップ・デンマーク戦で日本が勝利したときのスクランブル交差点の様子。写真提供:シブヤ経済新聞

渋谷ヒカリエにて「レゴ®ブロックイベント」開催

レゴ®ブロックで制作した現在の渋谷駅周辺の模型や、進化し続ける渋谷の街の写真などを展示予定。
※詳細は渋谷駅前エリアマネジメントの公式HP (<https://shibuyaplusfun.com/>) をご覧ください。

開催日:2019年2月16日(土)
場所:渋谷ヒカリエ8階 8/ COURT

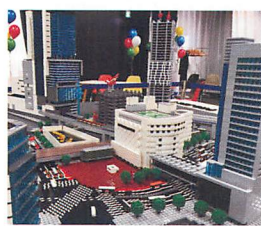


写真:前回開催時の様子



2013年、旧東横線渋谷駅舎のかまぼこ屋根が解体される。写真提供:東急電鉄



オフィス、商業、劇場の機能をもつ渋谷ヒカリエ。写真提供:東急電鉄